

(財)日本医療機能評価機構認定病院

地域医療支援病院

盛岡赤十字病院地域医療連携室広報誌



LEAF

令和7年3月
第52号
盛岡市三本柳 6-1-1
盛岡赤十字病院
地域医療連携室
発行責任者 院長 久保直彦

<基本理念>

私たちは、人道・博愛の赤十字精神にもとづき、
みなさまの生命と健康を守るために、信頼される医療を実践します。



写真：キンセンカ

特集

院長退任のご挨拶

アルツハイマー病新治療薬のご案内



院長 久保 直彦

早春の候、皆様にはますますご清米のこととお慶び申し上げます。

日頃は当院の診療と運営にご支援、ご指導をいただき、誠にありがとうございます。

私事で恐縮ですが、このたび3月31日をもちまして定年退職となり、院長を退任することとなりました。長きにわたり多くの皆様に支えられ、無事この日を迎えられることを心より感謝申し上げます。

私が院長に就任した2020年4月1日は、世の中が新型コロナウイルス感染症の影響で騒然としており、本来は東京の日赤本社で行われる辞令交付が中止となりました。また、同日は「アベノマスク」の配布決定がなされ、岩手県知事が「関東からの来県者に2週間の外出自粛を要請」した日でもあり、今となっては懐かしく感じます。

当院は赤十字の使命のもと、早期からコロナ対策に取り組みました。帰国者・接触者外来の設置から始まり、協力医療機関、次いで重点医療機関としてコロナ診療に尽力する日々が続きました。2023年5月にコロナは5類へ移行しましたが、その影響はいまだに大きく、病院では入院患者の減少による収入減で経営が逼迫し、苦労が続いております。

さまざまな困難がありましたが、この未曾有のパンデミックにおいて、皆様と協力しながら対応できたことが、何よりの思い出となっております。この間、交流の機会が減少してはいましたが、「医療連携の集い」も再開し、連携機関の訪問も再び行えるようになりました。そのような機会や日々の連携の場において、皆様から貴重なご意見、ご要望を数多く頂戴しました。解決できなかった課題については後任へ申し送り、当院がさらに医療の質を高め、地域医療に貢献できる病院となるよう、陰ながら応援したいと考えております。

また、今後も医療に関わる仕事を続け、地域医療や社会に貢献していきたいと考えております。さまざまな場面で皆様にお目にかかることもあるかと思うますので、これまでと変わらぬご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、皆様のご健康とご発展をお祈り申し上げ、退職のご挨拶とさせていただきます。今後とも盛岡赤十字病院をよろしくお願い申し上げます。

軽度認知障害、初期アルツハイマー病に対する新薬が出ました！

アルツハイマー病（AD）に対する加療は、今まで抗コリンエステラーゼ薬、NMDA受容体拮抗という症候改善薬はありましたが、病状の進行抑制は出来ませんでした。

近年、抗アミロイドβ抗体薬のレカネマブ（レケンビ®）、ドナネマブ（ケサンラ®）という薬が発売され、治せないまでも病気の進行抑制が可能になってきました。

アルツハイマー病の本来の診断は、病理学的に脳内に老人斑と神経原線維変化が存在することの確認が必要です。老人斑は、Aβという異常なタンパク質の蓄積を反映し、神経原線維変化は異常リン酸化タウの蓄積を反映しています。様々な研究でAβが病態に先行し、これが引き金になり、タウ蛋白の異常なリン酸化が引き続いて生じると考えられ、アミロイドカスケードと呼ばれています。この2つの物質の蓄積過程において細胞毒性が生じ神経細胞が損傷され、脳機能の障害が生じると考えられています。

新薬が開発され、病理診断ではなくin vivoでの診断が必要になり、現在は①認知機能の低下があり、かつ②脳内にアミロイドの蓄積が確認できれば、タウも蓄積されていると判断し、①②でアルツハイマー病と診断するようになりました。アミロイドの沈着は髄液検査またはアミロイドPETにより判定できます。

抗アミロイドβ抗体薬はAβ蛋白の形成過程の「プロトフィブリル」あるいは「アミロイドプラーク」に作用する抗体で、脳からこれらの物質を取り除くことでアルツハイマー病の進行を遅らせます。病初期でタウ蛋白の蓄積がすくない人ほど長く病気の進行を抑制し、一部では症状が改善することもあります。リン酸化タウは診断に関しての重要性は下がりましたが、蓄積量が少ない人ほど薬の効果が期待できることがわかってきています。

MMSEは20点～30点の間です。レカネマブは22点以上30点、ドナネマブは20点から28点と薬剤で適応範囲には差があります。いずれの薬もCDRは0.5～1ですが、「軽めの人」で開始したいところです。

対象患者さんおられましたら、当院ホームページに医療連携としてかかりつけ医から簡単に紹介が可能な「紹介用シート」を準備しています。

重要な点は患者御本人がこの疾患修飾薬を使いたいという希望があることです。家族のみの希望では行えません。副作用もありますので注意が必要です。

軽度認知障害、初期認知症の診断でもアミロイドによる病態が証明されないと使用できません。また、いくつかの検査により不適格事項がないかを確認する必要があります。レケンビは2週に1度の点滴で、ケサンラは1ヶ月に1度の点滴です。付き添い者も必要です。

軽度認知症、早期のアルツハイマー病でも、未来への夢を持ちにこやかな生活を維持するためにご紹介をいただければと思います。

盛岡赤十字病院 脳神経内科 米澤久司、齋藤あゆみ

Information



ご紹介の際には
こちらからアクセスください

URL : <https://x.gd/cPeiC>



医療機器共同利用(CT)のご案内

【利用可能な医療機器】

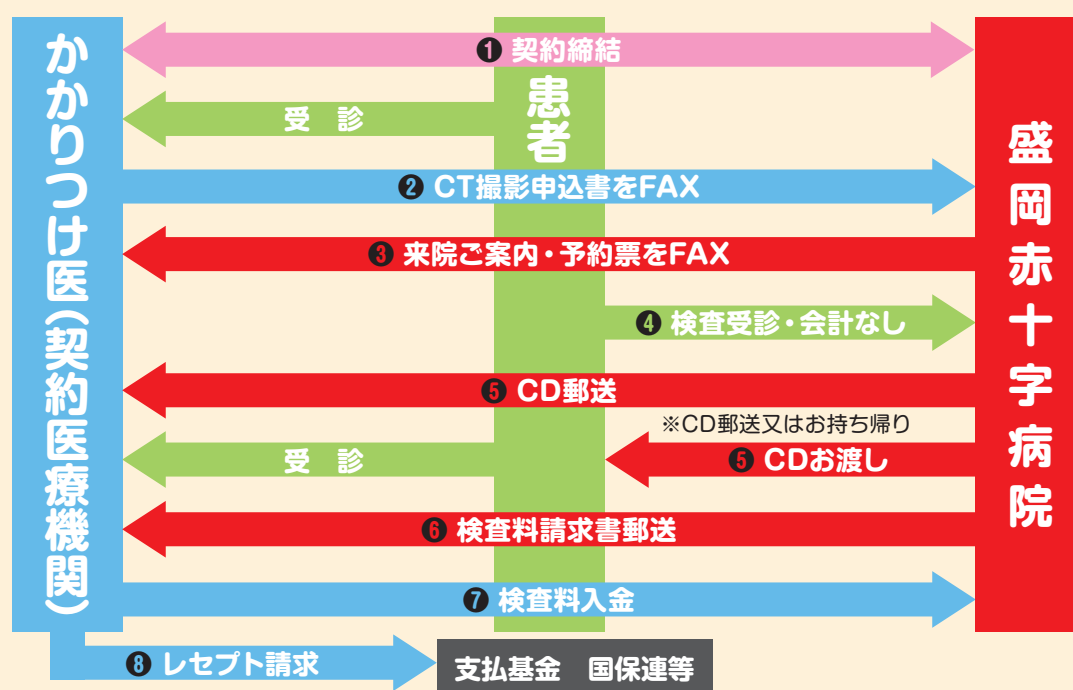
CT (80列マルチスライス型)

共同利用とは、当院の医療機器を地域の先生方にも利用していただけるシステムです。患者さんには受付や会計がございませんので、検査終了後はすぐにお帰りいただけます。

なお、当院での読影は致しませんので、読影をご希望の場合、造影が必要な場合は、これまで通り放射線科にご紹介をお願いいたします。

また、ご利用の際はあらかじめ契約が必要になりますので、当院ホームページよりご確認をお願いいたします。

医療機器共同利用フロー図



広報誌「LEAF」のメール発送について

郵便料金の値上げ及びSDGsの観点から、来年度より本誌PDFをメールにて送付させていただきます。ご理解とご協力の程宜しくお願い致します。

つきましては、現在メールアドレスのご提出がない連携医療機関様におかれましては、従来どおり紙での送付とさせていただきますが、下記メールアドレスへご連絡を頂けましたら順次電子送付とさせていただきますので、可能な限りご協力をお願いいたします。

お問い合わせ

盛岡赤十字病院 地域医療連携室

平日 8:30～17:00

renkei@morioka.jrc.or.jp

TEL 019-637-3312 (直通) FAX 019-637-3313 (直通)